

研 究 分 野	資源評価	部 名	漁業開発部
研 究 課 題 名	日本周辺高度回遊性魚類資源調査		
予 算 区 分	独法委託		
試験研究実施年度・研究期間	H. 13 ~ H. 18		
担 当	相坂 幸二		
協 力 ・ 分 担 関 係	(独) 遠洋水産研究所		

〈目的〉

日本が国際機関の高度回遊性魚類の保存・管理に協力し、当該資源の安定的な利用のため資源の科学的データを完備するための調査の一環である。独立行政法人水産総合研究センターが都道府県、大学、民間団体に委託する調査事業の一部で、本県のマグロ類、サメ類の漁獲関連データを取りまとめるものである。

〈試験研究方法〉

調査期間：周年（上半期：平成17年1月から6月末。下半期：7月から12月末）

調査項目：漁獲月日、漁法、銘柄、体長、体重

調査市場：マグロ類

日本海沿岸 ①岩崎 ②深浦

津軽海峡沿岸 ③三厩 ④大間

太平洋沿岸 ⑤尻労 ⑥六ヶ所海水 ⑦八戸みなと漁協・八戸魚市場

サメ類

太平洋沿岸 ①八戸みなと漁協・八戸魚市場

調査項目：可能な限り1尾ごとの漁獲月日、漁法、銘柄、体長、体重を水揚伝票から抽出後整理し、取りまとめ機関である日本エヌ・ユー・エス（JANUS）に報告した。

〈結果の概要・要約〉

（まぐろ類）2005年のクロマグロの水揚量は、調査対象7地区で622トン（前年441トン）と調査を開始した1992年以降最も多い水揚量となった（表1）。海域別にみると津軽海峡では前年並みの333トン（前年313トン）、太平洋も前年並みの57トン（前年55トン）であったのに対し、日本海では231トンと前年（73トン）より158トンも多い水揚量であった（表2）。

表3に地先別の漁獲量を示した。各地先の動向をみると日本海の岩崎では前年の40.8トンから114.8トンと大幅に漁獲が伸びている。隣接する深浦でも前年の32.3トンから116.9トンと漁獲が伸び日本海沿岸での漁獲が増加している。津軽海峡の三厩では前年の98.1トンからやや減少し89.9トンであったのに対し、大間では前年の215.4トンからやや増加し243.5トンとなっており、津軽海峡での漁獲は前年並みの水揚げ量となっている。太平洋の尻労では前年の50.3トンから48.1トンと水揚げ量はやや減少し、六ヶ所では前年の3.6トンから6.4トン、八戸では前年1.3トンから2.6トンとわずかながら漁獲が増加している。

漁獲尾数をみると岩崎では前年の1,698尾から7,587尾、深浦では前年1,518尾から8,799尾と両地先とも大きく増加している。三厩では前年2,014尾から1,557尾、大間では2,527尾から2,190尾と両地先ともやや減少している。尻労では前年の2,752尾から3,450尾、六ヶ所では前年の244尾から475尾、八戸では前年95尾から242尾とやや増加している。

〈さめ類〉

本県で漁獲量が最も多く、重要な魚種であるアブラツノザメはその殆どが底びき網による漁獲で、他に定置網や刺網で混獲され水揚げされている。2005年の水揚げ量は215トンと前年の158トンを上回った(図2)。八戸では周年水揚げが見られたが、1月から2月、11月から12月の冬季に多く水揚げされている。その他ネズミザメ、ホシザメが水揚げされるがその量はわずかであり、ネズミザメ(モーカ)の水揚げ量は5トンと前年の10トンを下回った。

〈主要成果の具体的なデータ〉

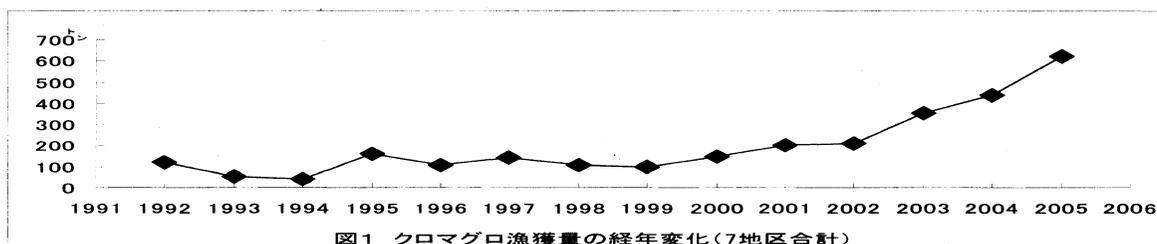


図1 クロマグロ漁獲量の経年変化(7地区合計)

月	岩崎	深浦	三厩	大間	尻労	六ヶ所	八戸	計
1	0	4	0	0	5,516	3,326	17	8,863
2	0	0	0	0	0	234	0	234
3	0	0	0	0	0	0	0	0
4	0	0	0	0	0	0	0	0
5	4,997	5,863	0	0	3,918	451	388	15,616
6	50,711	43,924	0	0	15,783	1,092	869	112,379
7	19,529	24,994	7,000	1,189	5,134	113	312	58,271
8	3,563	16,409	13,099	30,650	2,600	932	755	68,008
9	5,275	6,406	21,686	67,678	1,007	80	52	102,183
10	24,469	6,661	20,159	51,950	138	99	221	103,697
11	6,145	10,272	17,563	64,821	5,949	83	0	104,833
12	165	2,421	10,436	27,283	8,060	0	0	48,364
計	114,852	116,953	89,943	243,570	48,105	6,410	2,614	622,448

月	日本海	津軽海峡	太平洋	計
1	4	0	8,859	8,863
2	0	0	234	234
3	0	0	0	0
4	0	0	0	0
5	10,859	0	4,756	15,616
6	94,635	0	17,744	112,379
7	44,523	8,189	5,559	58,271
8	19,972	43,749	4,287	68,008
9	11,680	89,364	1,139	102,183
10	31,130	72,109	458	103,697
11	16,417	82,384	6,032	104,833
12	2,586	37,718	8,060	48,364
計	231,805	333,513	57,129	622,448

月	釣り	延縄	定置網	その他	計
1	0	0	8,863	0	8,863
2	0	0	234	0	234
3	0	0	0	0	0
4	0	0	0	0	0
5	0	0	15,616	0	15,616
6	45	0	112,172	163	112,379
7	8,190	856	49,140	86	58,271
8	34,760	10,077	22,933	239	68,008
9	57,908	38,848	5,375	52	102,183
10	55,491	47,711	273	221	103,697
11	47,245	51,555	6,032	0	104,833
12	14,087	26,133	8,060	84	48,364
計	217,726	175,180	228,697	845	622,448

月	岩崎	深浦	三厩	大間	尻労	六ヶ所	八戸	計
1	0	1	0	0	302	188	1	492
2	0	0	0	0	0	20	0	20
3	0	0	0	0	0	0	0	0
4	0	0	0	0	0	0	0	0
5	181	205	0	0	128	26	14	554
6	1,679	1,390	0	0	698	58	53	3,878
7	1,017	1,259	105	7	665	21	41	3,115
8	556	2,376	226	228	238	141	99	3,864
9	590	928	446	569	74	5	8	2,620
10	2,687	832	357	440	9	7	26	4,358
11	856	1,439	266	704	580	9	0	3,854
12	21	369	157	242	756	0	0	1,545
計	7,587	8,799	1,557	2,190	3,450	475	242	24,300

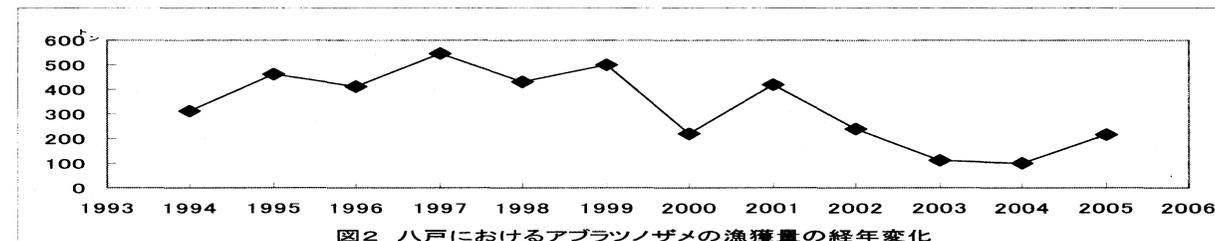


図2 八戸におけるアブラツノザメの漁獲量の経年変化

〈今後の問題〉

クロマグロについて太平洋での魚体測定データがなく、正確な年令組成が把握できていないため、今後漁協関係と検討しデータの収集に努める。

〈次年度の具体的な計画〉

昨年同様の調査内容となっている。

〈結果の発表・活用状況等〉

- ・平成17年度日本高度回遊性魚類資源調査委託事業報告会で発表。
- ・平成17年度報告書は日本エヌ・ユー・エスで印刷。